

まちづくりの地域情報紙

e EIGENJI **NET** **6500**



涼を呼ぶ 茶屋川の清流

情報紙 第116号 2024年 9月 1日

編集・発行：永源寺地区まちづくり協議会 東近江市山上町 1316 番地 永源寺コミュニティセンター内
IP：050-5802-9336 <http://members.e-omi.ne.jp/e-net6500/> E-mail：e-net6500@e-omi.ne.jp

まちの話題



地域の歴史再発見講座 永源寺相谷町をぶらいまち歩き

6月29日、永源寺コミュニティセンターの地域の歴史再発見講座で永源寺相谷町を訪ねました。

梅雨の中休みの一日、好天に恵まれ東近江市観光ボランティアガイドの木村与志雄さんの説明を聞きながら永源寺相谷町の歴史を学びました。

戦国時代から人と物が行きかう町として栄えた相谷町八風街道、うだつのあがる家、幻の思い出橋、戦国時代から残る野面積みなど、参加者は昭和ノスタルジーを感じながら、まち並みを歩き当時の様子を懐かしんでおられました。永源寺ダムからの迫力ある風景は壮大で、改めて地域の良さを再発見されました。



夏祭りのフィナーレは花火で みんなの夏休み2024



7月27日、永源寺コミュニティセンターでみんなの夏休みを開催しました。子どもも大人も楽しめる夏祭りにと実行委員会で工夫を凝らし、バザーやちびっこ広場、工事用重機の乗車体験、お楽しみ抽選会、花火と盛りだくさんのイベントとなりました。ちびっこ広場では、子どもたちに人気の射的、スーパーボールすくいなど、各コーナーは開始直後から大盛況。オープニングからトラックステージへ会場を移し、ゲストの演奏とお楽しみ抽選会で盛り上がりました。最後を飾ったのは、久々の花火です。身近にあがる花火の迫力に会場の皆さんから歓声や拍手が沸き起こっていました。

和南町に移住し林業振興を 地域おこし協力隊の綿貫さんに委嘱状



永源寺地区を拠点に林業振興を目指す地域おこし協力隊の委嘱式が、5月30日市役所で行われ、近江八幡市安土町出身の綿貫慧（わたぬき・けい）さんに小椋市長から委嘱状が手渡されました。

綿貫さんは帯広畜産大学を卒業後、北海道でゴルフ場を森林に還す事業に参加したことをきっかけに森林への興味が強まり、昨年、県の「ものづくりアカデミー」で林業の基礎技術を学ばれました。今後は和南町に移住し、県森林組合東近江事務所での研修を通じて林業従事者としての経験を積むとともに、あまり活用されていない広葉樹材の活用に向けた調査研究を進められるとのこと。

タレント・らくさぶろうさんを招き 人権ふれあい講座



永源寺地区人権のまちづくり協議会の第1回ふれあい講座が、7月12日に永源寺コミュニティセンターで開催され、約50名の方が参加されました。

今回は、らくさぶろうさんを講師に迎え、「言葉のチカラ」と題して講演いただきました。らくさぶろうさんは、ローカルタレントとして活躍しながら、松山市教育委員会の委託講師としても活動されています。

講演では、巧みな話術で参加者を引きつけ、笑いをとりながら、言葉の持つ本来の意味合いや重要性について話され、参加者はうなずきながら楽しいひとときを過ごしておられました。



雨合羽を着ての作業となった
永源寺中学校

市原小、永源寺中で実施

学校の除草作業

山上小は9月28日の予定

まちづくり協議会の安心安全部会では、昨年から始めた永源寺地区内3学校の校地の除草作業を今年も実施しています。すでに6月16日(日)に市原小学校、6月30日(日)に永源寺中学校で行いました。

昨年は永源寺地区21団体で構成する「永源寺みらい会議」のメンバーに出役していただきましたが、「地域の学校を地域のみならず綺麗にしよう」を合言葉に、ボランティア募集のチラシを全戸配布し、昨年は平日でしたが、地域の皆さんに出役していただきやすいようにと、土曜日、日曜日に実施しています。

両校とも多数の方が参加くださり、すっきりと除草をしていただきました。特に永源寺中学校は梅雨期で雨の中の作業となりましたが本当にご苦労様でした。

是非とも、地域の子どもたちが通っている学校を綺麗にするお手伝いを地域の皆様にお願います。機械をお持ちでなくても、道具はなんでも結構です。ご都合のつく学校だけでも結構です。ご参加をお待ちしています。

9月28日(土)には、山上小学校で午前8時から実施いたします。運動会には、児童たちに綺麗になった運動場で元氣いっぱい走ってほしいと思います。

木地師文化フォーラム

近代産業の発展を支えたくろくろ技術にもつと光を

木地師文化フォーラムが7月15日、木地師やまの子の家で開かれ、約130人が参加されました。今年は、立命館大学の木村裕樹准教授が「ろくろ技術の拡大と近代産業の発展」をテーマに講演されました。

江戸時代までは椀や盆などの漆器の木地が中心でしたが、明治時代になるとそればかりでなく、紡績木管や万年筆などの近代産業や洋風の生活様式と結びついた多種多様な挽物が生み出され、木地師も手引き



ろくろや鉋、木地製品、写真などを展示

立命館大学
木村裕樹准教授

から足踏みろくろへ、動力も人から電力に変遷していきました。講演では木地師がろくろ技術を生かし、殖産産業に貢献した歴史を紹介され、「日本の産業革命を下支えしたことをもう少し強調してもよい」と話されていました。1階ロビーでは市内在住の木地師の作品や、糸巻・ペーパーミル・万年筆などの近代産業製品や足踏みろくろが展示され、来館者が興味深そうに見学をされていました。



立命館大学の木村准教授の講演

愛知川を 未来に つなぐために



ホールいっぱいの参加者



愛知川の魅力を知っていただくため、6月26日、愛知川の自然と生き物研修会が永源寺コミュニティセンターで行われました。

研修会は、愛知川漁業協同組合（村山邦博組合長）が開催したもので、愛知川に関わる機関の関係者ら76人が参加され、4人の方からの報告を熱心に聞き入っていました。

愛知川の自然と生き物研修会



上右：東近江市環境部管理監 丸橋裕一さん 上左：滋賀県琵琶湖環境科学研究センター 水野敏明さん 下右：愛知川清流会初代代表 田中進さん 下左：元滋賀県水産試験場長 藤岡康弘さん（発表順）

■①愛知川の自然

丸橋裕一さんは、琵琶湖の河口から鈴鹿の源流までの愛知川の現状を、たくさんのスライドを使って分かりやすく話されました。「現在の愛知川は、瀬切れや河床の悪化などの課題を抱えているが、ピワマスが今も遡上している現状もある。濁水の長期化は、山の崩壊が大きな原因。琵琶湖から鈴鹿の源流までのつながりがあるからこそ、豊かな愛知川といえる。川も山も本来の美しさにぎわいを取り戻したい」と強調されました。

■②愛知川の特性と生物の多様性

「琵琶湖は100万年以上



解禁日には県内外からの釣り人でいっぱいであったかつての愛知川

存続している古代湖であり、固有種をいくつも含む淡水生態系を持ち、世界最高評価を受けている場所のひとつである。その価値は、世界的なエコツアーを実践するガラパゴス諸島と同等。愛知川は、その古代湖琵琶湖の宝石ピワマスが森林域の河川で産卵する奇跡の川である」と、熱く語る水野敏明さんは、渋川ピワマスが遡上できる魚道づくりを実践した活動についても報告されました。

■③愛知川の「鮎」の魅力

小学生の頃から毎日のように愛知川で鮎釣りをしてきたという田中進さんは、「昔は、川の中を歩くと足の裏に鮎が入るほどでした。天然遡上の

鮎が非常に多く、20センチ以上の鮎を友釣りや釣ったり、シャクリで捕っていました。愛知川は水質がよく鮎の成長に適った餌が豊富であった証といえます。愛知川の鮎は美味しく銀座の高級料理店でも人気であったと聞きます。京都の料理屋で板長から『滋賀愛知川の鮎だといいんですけど』と言われたこともありまして」と、経験を通じて愛知川の鮎の魅力を話されました。また、愛知川清流会で定期的に行われている水質調査や水生昆虫調査、付着藻類調査などの結果についても報告されました。

■④滋賀県における「さかな」から見た愛知川の存在

愛知川で魚類調査をされてきた藤岡康弘さんは、愛知川の生き物のにぎわいを取り戻すためには、①瀬切れしないための一定流量の確保 ②ダムによる濁水の長期化を軽減するための放水の工夫と対策 ③河口部の流れの確保と砂礫の保全 ④ダム下流部への砂礫の補給と流下 ⑤川床の耕うんなどによるアユの産卵場の確保と改善 の5点を提言として述べられ、研修会を締めくくられました。



完成イメージ図

永源寺中学校 大規模改修工事に着手

令和8年3月、解体も含めすべて完了予定

永源寺中学校の大規模改修工事が、いよいよ始まり8月21日に、起工式が行われます。今回の大規模改修工事は、昭和51年に建築された現在の校舎が、おおむね築50年を迎えることから、新しい校舎を建築するものです。

新校舎は、現在の校舎と特別教室棟の間の中庭に建築され、新校舎完成後に、現在の校舎は解体されることとなっています。すべての工事は、令和8年3月の予定です。

新校舎は、仕上げに木材を多く使用して温かみのあるように設計されており、各教室の距離を近くし、使い勝手がよい学習環境に配慮したコンパクトな学校作りを目指されています。



新校舎完成後、解体される校舎



配置の概略図

地籍調査って、なに？



一筆地測量の様子

昨年からは市原野町で、また、今年からは和南町で地籍調査が始まっています。

大規模災害などの万一に備えて、東近江市でも近年特に取り組みが進む地籍調査ですが、市原野町と和南町が初めての取り組みとなります。そこで、地籍調査の概要についてご紹介します。

人に戸籍があるのと同じように、土地には地籍があり、地籍は土地に関する記録のことをいいます。地籍調査では、一筆ごとの土地の所有者、地番、地目を調査するとともに、境界および地積（面積）について正確な測量を行い、地籍簿と地籍図を作成し、法務局

に備え付けられます。

法務局にある公図の約半分は、明治時代の地租改正によって作られた地図をもとにしたもので、土地の境界が不明確であったり、測量も不正確であったりする場合もあります。土地の境界が不明確であると、境界紛争などさまざまなトラブルが発生しがちです。地籍調査の実施は、このようなトラブルを未然に防ぐことにつながります。また、地籍調査をしていないと、土地を売買する場合に隣地との境界確認に時間を要したり、登記簿と実測の面積が異なるなどの問題が生じることがあります。地籍調査を実施して

地籍調査の流れ

1年目	地籍図根三角測量 測量する際の基準の点となる三角点を調査区域の外周に設置を行います。
1・2年目	一筆地調査 一筆ごとの土地について、所有者・地番・地目および境界の調査を行います。 土地所有者等の立会いのもと、個々の境界に境界明示を行います。
	一筆地測量 明示された境界をもとに一筆の土地ごとに土地の測量を行います。
3年目	地籍簿・地籍図作成と成果の閲覧 土地の測量結果に基づき、地籍簿・地籍図を作成しますので、誤りがないか確認していただけます。
4年目	国の認証、法務局への送付 事業の成果について、県知事および国土交通大臣の認証を受けます。 その後、法務局で地籍が書き換えられます。

おくと、境界確認や測量を行う必要がなくなり、時間と費用が節約できるだけでなく、土地の売買や登記の手続きの円滑化に役立ちます。

また、地籍調査では、境界の位置を地球上の緯度経度に紐づけて管理するため、万一の災害の後でも元の位置を容易に復元することができ、迅速な復旧事業が可能となるわけです。

この調査は、右の表のとおり約4年にわたり行われます。調査に必要な経費は、国・県・市で負担するため、個人負担はありませんが、自治会や土地所有者全員のご理解とご協力が必要です。



大和田とうふ店

東近江市一式町 295-1

電話:0748-26-3060

営業時間:10時~17時

定休日:毎週日曜、第①・③月曜
(GW、お盆、年末年始休日あり)

こんにちは保健師です 23

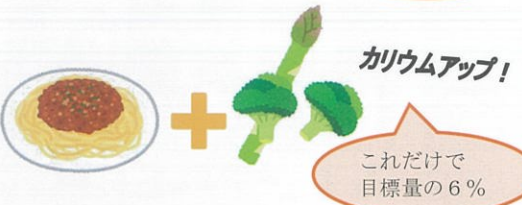
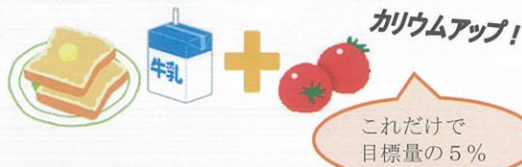
野菜が血圧を下げるお手伝い

永源寺地区は、高血圧で治療中の人が多い*地区です。薬に加え、食からも血圧を下げていきましょう。

* 特定健診質問票より



野菜に含まれるカリウムは、摂りすぎた食塩を体外へ排泄する手助けをします。



⚠ ただし、腎機能が低下している人は、必ず医師に相談してください。

食塩を摂りすぎない適塩に努めるほか、毎食2品以上の野菜料理を食べましょう。

簡単にできる野菜レシピを市ホームページに掲載しています。ぜひご覧ください。



東近江市 健康づくり

永源寺地域が登場する本・雑誌

永源寺図書館提供

『だれのかげ』

新見南吉 作/西條由紀夫 絵/サンライズ出版

ひろっぱのまんなか落ちていた、大きなかげ。スズメやポストは、じぶんのかげだといいますが、そうではありません。このかげのもちぬしは……。

新見南吉の物語に、永源寺地区在住の西條由紀夫さんが絵をそえました。独特の質感は、ポンドを塗った上に絵の具を重ねて作られたものだそう。鮮やかな色彩が印象的な美しい絵本です。



『野の花』

岡崎善通 作/みらいパブリッシング

あぜ道に咲くハイカラな花や森の奥の池のほとりに咲くピンクの花。そんな野の花が好きな男の子は思いました。花屋さんの花よりずっときれいなのはなんでやろう。男の子の大切な気づきが美しい水彩画で温かく描かれます。作者の岡崎さんは、8月22日から永源寺図書館で開催される「上二俣趣味の会」作品展に参加されます。



養蜂 バトックウエーブ

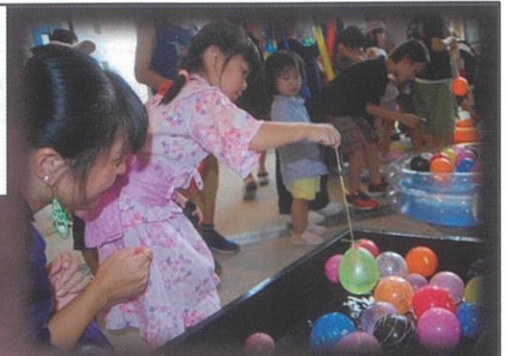
鈴鹿山系の天然里山はちみつ 販売
ご家族のご健康に！贈り物に喜ばれています
お困りの蜂の巣 駆除依頼 要相談にて



東近江市高木町 115 代表 小西隆司 携帯 090-1443-3493
営業時間 9:00~17:00 定休日 月曜日 木曜日



やっぱり夏祭りには浴衣が似合う



上手く釣れるかな？風船ヨーヨー釣り



子どもたちに人気のスーパーボールすくい



重機の乗車体験



抽選会 バイオレッツの選手も参加



「丸ちえろ」のパフォーマンス



木猫隊の演奏



ハザーも盛況。人でにぎわう会場

協力：永源寺建設工業会 (株)奥田工務店 東近江市商工会永源寺支部

編・集・後・記

近年の気温40度近い異常な暑さ。聞きなれなかった「熱中症警戒アラート」の言葉も日常会話になってしまいました。この先、地球はどうなってしまうのか本当に恐ろしくなります。

話しは変わりますが、先日「夏バテ予防」についてお話を聞く機会がありました。夏バテの主な原因のひとつは、大量の発汗や食欲不振による水分や栄養素の不足。夏バテ予防に効果的な栄養素(食べ物の例)として、ビタミンB1(豚肉やウナギ・玄米・こま)、ビタミンB2(レバー類・牛乳・納豆)、たんぱく質(肉類・魚介類・卵・大豆製品)、ビタミンC(キウイフルーツ・レモン・プロッコリー)、クエン酸(梅干し・レモン・夏みかん・もろみ酢・黒酢)のほか、ミネラルやタウリンの摂取と説明されました。しかし猛暑が続くと食欲も落ちます。「そんな時は料理にレモンやカボスなどの酸味をはじめ、ハーブ、スパイス、しょうが、ネギなどの香辛料や香味野菜でひと工夫を加えることで食欲を高めることができ、消化吸収の促進や疲労回復、血行促進などにも効果が期待できます」と、すすめられました。我が家も試してみたいと思っています。

この広報紙が皆さんの手元に届く頃には暑さが和らいでいるかもしれませんが、体調管理の参考にしていただけたら嬉しいです。(H)